



人生の質を高めるために・・・

第3回:【自ら努力しよう】

みなさんは、学校生活12年間のうちに、「私は〇〇を頑張った！」
「思いっきりやった！」という経験はありますか？

きっと部活動やスポーツ大会、文化祭の準備など、何かに一生懸命
取り組んだという経験があるのではないのでしょうか？何もない・・・という方も、高校受験
や大学受験、資格の取得など、目標に向かって頑張っていた時期があると思います。では、
私たちの目の前にいる子どもたちは、卒業までの間に、一生懸命努力をする機会はあるで
しょうか？もし、努力をする機会がないままの生活を続けてきたとしたら、その子どもが学校
を卒業後、家庭生活や地域生活、職業生活で努力し、人生の質を高めようと思うことができ
ないでしょう。

青森県では、毎年、青森県特別支援学校技能検定・発表会が開催されています（今年度は
10月20日実施予定）。この技能検定は、目標に向け努力することを体験する、素晴らしい
機会です。私たちは、高校生になると、大学受験や就職試験、また、国家資格をとるため
の受験などに向けて努力をしてきました。こうした体験が実社会を生きるための適応力を高
めます。実社会で生きていくためには、同じことが必要なのではないのでしょうか？失敗しな
いように、ハードルをできるだけ低くして活動に取り組むことも必要ですが、学校在学中に、
目標を決めて、自ら努力する経験が大切だと思います。そういう意味において、技能検定は
とても大切な取り組みだと感じています。子どもたちは1級に合格したいと、真剣に努力す
る意欲が育っていきます。実際に、1級取得に向けて頑張ることで「産業現場等における実
習への取り組み方が変わってきた」「自分に自信をもって臨むようになった」など検定に向
けた練習の中で、生徒たちは大きく成長をしています。

目標に向けて努力し、目標達成をすることは大変重要なことですが、目標達成できなくて
も、目標に向けて努力しようとする意識ができたとしたら、それ
だけでも、今後の人生に大きなプラスになるのではないでしょ
うか。目標に向けて努力する体験を学校生活12年間のうちに、ど
れだけ行うことができるかで、将来の人生の質が違ってくるので
はないかと思います。

今年度後半が始まる前に、これからどんなことを頑張るか、親
子で話をしてみてはいかがでしょうか？

参考：上岡一世著 新学習指導要領を踏まえたキャリア教育の実践



【高等部施設・職場見学】

7月7日(木)、高等部施設・職場見学がありました。A～Cの3コースに分かれて見学し、Aコースは、「ひまわりの家」「Wake Arena」「みなくる」、Bコースは「REPLAY」「イオンつがる柏店」「コープあおもり物流サポートセンター(オンライン)」、Cコースは「藤くらばんでりあ」「ヤマト運輸」「コープあおもり物流サポートセンター(オンライン)」でした。

生徒たちは、事前に質問を考え、どんなところを見学するのかワクワクしながらも、緊張して当日を迎えました。見学先では施設や会社の担当の方が、普段目にするののない「働く場所」を案内してくださり、本校の卒業生が働いている様子を見ることもできました。生徒たちは、「休憩時間は何をしていますか?」「他の社員の方と、どのようにコミュニケーションをとっていますか?」など、職場での過ごし方に関する質問や、「将来に向けて、学校で取り組んでおくことは何ですか?」「失敗をなくすためにどんな工夫をしていますか?」といった、働く上での必要なことに関する質問、「初めての給料は何に使いましたか?」「お金をもらったら家族にプレゼントをあげましたか?」など給料(工賃)についての質問などをしていました。

担当の方からは、「働くことができる体力、大きな返事、元気な挨拶を大切にしてください」「学校での勉強や実習を一生懸命にやってください」とお話ししていただきました。

生徒たちは、施設・職場見学を通して自分の将来のことや、次の実習先について考えることができたようです。



シリーズ 「今から取り組もう②」

今回は、アンケートでいただいた「相談支援事業所」について、話題提供したいと思います。

<Q3 相談支援事業所についてアンケート結果>

相談支援事業所について質問です。卒業に向けて、相談支援事業所の利用が必要になってきますが、そのことはご存じですか。当てはまる欄に○を付けてください。

	知っていて、 すでに利用している	知っているが、 利用していない	よく分からない
小学部	8 (38.1%)	3 (14.3%)	10 (47.6%)
中学部	4 (25.0%)	4 (25.0%)	8 (50.0%)
高等部	7 (20.0%)	15 (42.0%)	13 (37.1%)
全体	19 (26.4%)	22 (30.6%)	31 (43.0%)

「知っている or 分からない」だけに注目すると、**小中学部で約半々**になっていることに比べ、**高等部**では若干ですが「**知っている**」という**ほうが多い**という結果が得られました。これは、卒業後の生活について、今も今後も相談支援事業所と一緒に考えていくということに直面しているからなのかなあと考えられます。

今回のジャーナルで、「相談支援事業所」について、一般的な内容ではありますが、お知らせしようと思います。



<相談支援事業所について>

障害者やその家族が、さまざまな福祉サービスを利用しながら、地域の中でその人らしい暮らしを続けていくために、あらゆる相談を受け止め、常に本人の立場に立って、「望んでいることは何か」「何を支援すればよいか」「支援をするときに地域の社会資源はどんな状況か」など、さまざまな視点をもって、家族、支援者、行政等とネットワークを構築しながら本人中心の支援について、一緒に考えてくれる事業所のことです。卒業後はもちろん、在学中であっても、本人または家族に大きな変化などがあり、サービスの利用内容について相談したい場合、学校以外で相談できる場所となりますので、お気軽に問い合わせしてみてください。



●簡単に言うと・・・

福祉サービス（放課後等デイサービス、短期入所 etc.）を利用している家庭は、相談支援事業所を利用しているということですね。

それでは、一旦確認してみましょう！！

●今度からは・・・

「うちは、〇〇の相談支援事業所を利用していて、担当者は〇〇さんです」と言えるようにしておきましょう。。。。



厚生労働省でも、詳しく説明していますので、もしお時間ありましたらそちらも参考にしてみてください。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/service/soudan.html>

↓ここに、近隣の相談支援事業所の一覧を掲載しておきます。

多分、「もう利用しているよ」というご家庭もあるかと思いますが、今一度ご確認の上、今後の会話に役立ててもらえればと思います。

近隣の相談支援事業所一覧

<つがる市>

- ・障害者相談支援センター「つがる」
- ・相談支援事業所もりた

<西・北津軽郡>

- ・相談支援事業所 翔
- ・内潟療護園相談センター
- ・社会福祉法人深浦町社会福祉協議会

<五所川原市>

- ・相談支援事業所 虹
- ・青松園相談支援事業所
- ・五所川原リハビリ倶楽部
- ・あずましや相談支援事業所
- ・しあわせセンターうるしかわ
- ・五所川原市社会福祉協議会
- ・相談センターハ冕園
- ・びーた支援センター
- ・相談支援事業所ウィル
- ・栄幸園相談支援事業所
- ・夢の森相談支援センター
- ・あーると相談センター
- ・ラ・プリマベラ
- ・大東ヶ丘サントピアホーム